

《質疑応答》

○ 守田市長に対する質疑応答

【RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入について】

問 RPAの件ですが、去年まで実証実験をされて、検証結果のどういう部分を評価されて、導入をされることに至ったのか、もうちょっと詳しく教えていただければと思います。

答 「業務改革モデルプロジェクト」によって、「ふるさと納税」の業務がRPAの実証をするにはいいのではないかとこのことで実験を行ったところ、極めて有効なことがわかりました。これを時間勤務1日あたりにしますと約80分の業務効率化とともに、職員の負担軽減が図られたわけです。  
それをもとに今年は本格的に導入したいと考えたところです。

問 これを導入されることによって、どのくらい具体的な効果の数値みたいな予測は立てられていますか。

答 去年はふるさと納税の1業務だったのですが、今年は6業務にRPAを導入します。導入に伴う労働時間や人件費削減の効果は、今後の導入に係る費用が確定していないことから、現時点においては正確には算出しておりませんが、業務改革モデルプロジェクトで今回の導入する6業務のうち、ふるさと納税、住民異動そして職員給与、会計業務の4業務にRPAを導入した場合、年間、3,632時間の効率化が可能との試算ができました。  
この時間は職員の人件費に換算しますと年間1,193万円。職員約2名分の人件費に相当します。

問 今回準備整い次第、業務を取り入れていくとのことですが、具体的に早ければ今年度末からとか、来年度からそういった目安となるような時期はあるのでしょうか。

答 （総務部長）今年度末までを委託期間としておりますので、来年度からは導入を本格的にしたいと思っています。ただ、その前には出来上がったものについては、順次、実証していきたいと思っています。

問 導入する6業務は、市政の中でも特にこの6つが人件費とか労働費がかかるものから選んだということによろしいでしょうか。

答 (総務部長) RPAというのは、人間がやっていることを機械に置き換えることですので、今回対象に選んだのは、どうしても人がやらなくてはいけないところを機械に置き換えることができないだろうかという視点に基づきまして、その業務を選定したところでございます。

問 これを導入することによって、例えば、この候補にあがっている6業務について、現在、その職員が何人いるのが、これを導入することによって、何人になるの見込めるのか、お尋ねします。

答 (総務部長) 年間3,632時間の効率化が可能と考え、試算しておりますが、どれぐらいかはこれから考えていきますが、全体の中で2名ぐらいの配置転換は可能ではないかと考えています。

問 RPAをとりあえず6業務に導入となっておりますが、将来的にはもっと多くの業務に拡大可能と考えていらっしゃるのでしょうか。

答 (総務部長) その点につきましても現在、各部署に照会をかけておまして、先ほど見ていただいたようなことを職員に実際に見せまして、これなら自分の業務にも導入できるのではないかとこのところをあげ、今後のどの業務なら導入できるという参考にさせていただいているところでございます。

問 RPAの事で確認ですが、3,632時間というのは4業務についてですか、それとも6業務についてですか。

答 4業務でございます。

問 それの1,193万円というのも4業務についてということでしょうか。

答 そうです。1時間あたり単価で計算しておりますので、4業務になります。

問 では、2名分というのも4業務でしょうか。

答　そうです。

問　ということは、6業務での数字は出ていないということでしょうか。

答　まだ、出ていません。

問　昨年行った実証実験の具体的な時期やどういったことをされたのかということをお教えいただければと思います。

答　（総務部長）始まったのは、4月から5月にかけて総務省からの募集がありまして、6月に内定を受け、それから補正予算を組み、実質的に7月から始めたところです。

まずは、業務の棚卸、実は先ほどの6業務のうち4業務は棚卸を行い、残りの2業務はその時に棚卸をしていなかったものですから、時間が出なかったということになります。

その棚卸をしながら、どの業務をRPA導入の実証実験を行うか選定しましたところ、市長政策室にふるさと納税の業務がありましたので、これを行ってみた結果、先ほど申しました1日80分の時間が出てきて、その成果をもとに始めました。

問　1日80分ということは8時間のうち80分というふうに考えてよろしいでしょうか。

答　（総務部長）RPAは24時間ですので8時間とは言わず、夜中でも活動できますので、人間にすれば8時半から5時15分の間の80分になります。

したがって、RPAに置き換えますと、その作業を夜中でもできることになり、実質的にその職員は来たときには他の仕事に当たることも可能です。

問　RPAが当たれる時間はいいのですが、人間の労働時間、母数とすればいかがですか。

答　（総務部長）勤務時間を正確にいうと7時間45分ですので、そのうちの80分ということになります。

【「さしより野菜・たっぷり野菜プロジェクト」の取組状況】

問 この資料にはないのですが、もともと、さしより野菜事業、生活改善に取り組みようというきっかけとなった出来事のようなことがあったのですか。  
なにかとんでもない数字が出たとか。

答 確かに宇城市は高血圧ではあまり良い成績ではございませんでした。その中で、東京都足立区の野菜の取り組みが全国的にも報道され、これは宇城市にも導入する必要があるのではないかと考え、足立区に行って勉強を始めたところが最初の経緯です。

問 それは29年度ですか。

答 2年ほど前になりますかね。視察に行ったのは去年ですね。足立区に行ったのは、昨年8月末から9月頭になります。

問 ちなみに足立区はどういうことをされていたのですか。

答 このさしより野菜の取組です。食事の先に野菜を食べてもらうという活動で、実際に数字が出ていましたし、私も行きましたけれども、やはり市をあげて、そして周辺のショップ含めて、相当な盛り上がりを感じたところです。

#### 【小学生向けプログラミング教室の開催】

問 採用力向上も含めてなんですけども、ビジネスサポートセンターができた後、矢継ぎ早にいろんなセミナーやいろんないわゆる雇用確保に非常に力を入れていらっしゃるようですけれども、全体としての危機感みたいなものがあるのかなと思うのですが、その辺はいかがですか。雇用とか人口減に対するものかなと思うのですが。

答 ご指摘のとおりで、やはりこの宇城市にとって、高校卒業した子供たち、大学卒業した人たちがその世代が一举に宇城市から離れていく。

その理由の中にIT初め事務職の希望があるにもかかわらず、その就職口が少ない。その中でどうしたらいいかというところで、今、経済部も、IT企業の誘致も頑張っておりますし、そのうち一社についてはもうしばらくしたら発表もできるかとは思いますが、そういう一連の中で、起業について、力を入

れてきております。

その一環として、今回、ビジネスサポートセンターも作らせていただき、場所時間の提供する中、今後 I Tを含めた、企業の誘致に頑張っていきたいと考えております。

○ 平岡教育長に対する質疑応答

【学校への ICT 企業での導入について】

問 これは、今回4年生ということですが、3年生以下にもいずれは配備されていくということでしょうか。

答 はい、そうです。計画的に設置していきます。

問 ということは、1年前倒しになったというふうに考えてよろしいですか。

答 そうですね。現在の整備では、市内の小中学校の全普通教室の207に対して、106学級の設置なので、これをできるだけ計画的に進めていければと思っています。

問 この500万円の寄付は個人からということでしょうか。企業ですか。

答 その辺は、ご本人様が氏名は出さないでほしいとのご意向ですので、控えさせていただきます。個人なのか企業なのかも控えさせていただきます。

以上